

第494回IBC番組審議会

1. 開催日時 平成16年12月16日(木)午前11時

2. 開催場所 IBC放送会館 大会議室

3. 委員の出席

委員数	14名
出席委員数	9名
出席委員の氏名	
委員長	石川 桂司
副委員長	藤原 正紀
委員	阿部 价男 熊谷志衣子 佐藤潤次郎 宮澤 徳雄 矢佐 俊幸 山崎 文子 吉沢 正則
欠席委員の氏名	小苺米葉子 小松 務 坂田 裕一 中原 志郎 米谷 春夫

会社側出席者

小西 隆昭	代表取締役社長
阿部 正樹	代表取締役専務
佐藤 敏行	常務取締役
川島 敬司	常務取締役編成局長
井上 隆志	取締役技術局長
柴田 継家	報道制作局次長
角館 郁也	制作部専任部長

事務局

金谷 保彦	番組審議会事務局長
小笠原 勉	番組審議会事務局次長

4. 議題 『じゃじゃじゃTV』

5. 議事の概要

< 委員の主な発言 >

- ・ 一つ一つは関心ある人には面白い番組だと思いますが、番組が長いので最後まで見るのは大変だと思った。
- ・ 面白いコーナーを掻い摘んで見ている。地元の情報をこの番組で知る事も結構あるので、地元発信の番組は大事にして欲しい。
- ・ 特集の「こんなところ岩手県」で、東京に続いて関西も取り上げていたし、岩手純情米やマグロ祭り、忘年会の特集など幅広く取り上げている感じでした。
- ・ 最新生活情報ということで、身近なところに題材を求めており、趣向は非常に面白いという印象を持った。
- ・ 情報が盛りだくさんで、制作サイドが工夫して何とか2時間飽きさせない番組にしようとしていることが理解できました。
後半の構成で、情報の切り口を文化、経済、観光、健康など企業PR的なものではないところのタイアップもあった方がいいのではないのでしょうか。
- ・ TBSの看板アナウンサーがいろんな番組に顔を出していますが、局アナとしての節度からきっちりみださないようにしながら、一方での人気をちゃんととっている。地元の局になるとタレントの代わりにアナウンサーが総出で作ります。報道ニュースも読まなければならないという節度の中で、難しいかもしれないが、制作の演出もどこかで仕切りが必要なんだなと感じた。

< 局側 >

- ・ 2時間のゾーンの中で、土曜日の9時半に起きて見る方もいれば、10時に起きた方でも見られるように、つまり2時間の商品というより、途中で見てもわかるし、最後まで見なくてわからなかったという番組ではなく、どこからでも乗り降りできるゾーンとしての情報番組を想定して作っています。
- ・ 女性の方、実際には30代以上が多いようですが、ファミリー全体を考えています。情報として土曜日、日曜日の週末に出かける場合、どんな県内の話題があるのか気軽に見てもらえるように、今日はここに出かけてみようかというヒントになる番組をイメージして作っています。
- ・ 番組の後半にタイアップ情報が多くなり、CMと情報・報道番組との境目が苦しいという指摘はそのとおりだと思っています。情報番組として一番気をつけなければならないのは、間違った情報が流れないことであり、それを大前提に作ってはいますが、生の情報をそのまま出してしまうと、見ている方にも違和感が生じることがあるのは理解できることだと思います。